

科目分類	専門分野Ⅱ 母性看護学	開講年次・時期	1年次 12月～2月		
科目名	母性看護学概論	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師 (実務経験)	専任教員(母性看護領域臨床実務 経験あり)	講義時限	28時限	試験時間・配点	2時限 100点

◆学習目標

- 1.母性看護における基礎となる概念、対象の特徴と、役割について理解する
- 2.母性看護の歴史、動向を知り、リプロダクティブヘルスの概念をもとに、今後の看護における課題について理解する
- 3.女性のライフステージ各期における特徴と健康、母性にかかわる法律について理解し、母子保健の在り方や健康の保持・増進を基盤とした看護について理解する

回	授業内容	授業方法	学習課題
1回	1. 母性看護の基盤となる概念 母性とは ・母子関係と家族発達	講義	
2回	セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ・ヘルスプロモーション	講義	
3回	母性看護の在り方・母性看護における倫理・母性看護における安全・事故防止	講義 DVD鑑賞	
4・5回	2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性看護の歴史の変遷と現状：母性看護の変遷・母子保健統計の動向	講義	
6回	母性看護に関する組織と法律・母子保健施策・母性看護の場と職種 母性看護の対象を取り巻く環境：家族・地域社会 その他	講義	
7回	3. 母性看護の対象理解 4. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化・家族 母性の発達・成熟・継承	講義	
8・9回	5. 女性のライフステージ各期における看護 ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	GW	
10回	6. リプロダクティブヘルスケア 家族計画・性感染症・HIVに感染した女性への看護・人工中絶と看護	講義 ビデオ鑑賞	
11回	喫煙女性の健康と看護・性暴力を受けた女性に対する看護 児童虐待と看護・国際社会と看護	講義	
12回	5. 女性のライフステージ各期における看護 ・思春期の健康と看護	GW発表	
13回	成熟期の健康と看護	講義	
14回	更年期の健康と看護 ・老年期の健康と看護	講義	
15回	試験		

◆教科書

1. 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①:森恵美: 医学書院:2017年
2. 国民衛生の動向 2017/2018:厚生労働統計協会

◆参考文献

- 1.新体系看護学 30 母性看護学①母性看護学概論・母性保険/女性のライフサイクルと母性看護:新道幸恵:メジカルフレンド社:2006年
- 2.NICE 母性看護学 I 概論・ライフサイクル:大平光子ほか 南江堂:2014

◆成績評価の方法 :筆記試験 本単元30時限 100点とする。その他、課題への取り組み状況、授業態度などを踏まえて相互的に評価する

◆担当教員より一言◆

本科目は現代社会の情勢を踏まえ、母性を取り巻く現状を統計学的視点から幅広く理解し、今後の母性看護の課題や役割を考え、母性看護の基盤となる概念について理解してほしい科目です。そのためにはこれまでに学んだ看護学概論や成人看護学概論、また進行中である老年看護学概論において学んでいる、ライフステージ各期の特徴と保健の動向、健康の保持・増進に向けた看護の役割を理解しながら学ぶことを前提とします。また本科目と同時に小児看護学概論についても学びながら、母性看護の対象について理解する必要があります。現代は働く女性も多く、少子高齢化や晩婚化等、様々な社会的背景がありますが、人が妊娠し、子を産み育てるといふ営みは人間として普遍のものであり、そのため母性の対象も女性のみならず、男性や家族、地域社会にまで広げて考えることが重要です。このような社会背景の中で看護の対象である「人」の生命が誕生するとはどういうことかについて今から深く関心を持ち、生命の尊さを考え、今後の実習や学習に生かすための基盤として下さい

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	2年次 6月～9月		
科目名 単元名	母性看護学援助論Ⅰ (周産期にある人々の看護)	単位数	1単位	時間数	30時間
担当講師 (実務経験)	専任教員(母性看護領域臨床実務 経験あり)	講義時限	28時限	試験時間・配点	2時限 100点

◆学習目標

1. 妊娠の生理や胎児の発育とその生理、妊婦の身体的な変化や特徴について理解する
2. 妊婦、家族の新しい役割について理解し、妊娠期の心理・社会的特徴と、安全に分娩期を迎えるための援助について理解する
3. 分娩の正常な進行を促すための援助及び安全・安楽に出産するための看護の視点について理解するとともに、産婦・胎児の健康状態を理解し、分娩の進行に沿って必要な情報の収集、観察の技術等、援助の実際について学ぶ
4. 産婦の身体的変化(進行性変化・退行性変化)と、産褥経過の診断、看護に必要な健康状態のアセスメントの視点について理解し、退院後の産婦へのサポート体制について理解する
5. 子どもを迎えた産婦・家族の心理・社会的な役割変化について理解する
6. 出生直後からの新生児の生理的変化について理解し、身体的特徴について理解する
7. 新生児の発育の評価、健康状態のアセスメントを理解し、新生児と母親・家族関係に留意した看護について理解する

	回	授業内容	授業方法	勤労者医療との関連
授 業 計 画	第1.2回	第1章.母性看護の役割の拡大 A. 子供を産み育てるとのこと B. 母親になるとのこと	講義	勤労者医療該当箇所 ★女性の就労者が増えている事、高齢初産、未婚等現代の社会背景を理解し就労しながら結婚・出産する女性について考えながら看護を理解する ・正常な妊娠・分娩の経過をふまえながら学ぶ ・妊産婦に関わる制度について復習する ・ 養育支援制度 に関して学習する
	第3.4回	第3章.妊娠期の看護 A. 妊娠期の身体的特徴 B. 妊娠期の心理・社会的特性	講義	
	第5.6回	C. 妊婦と胎児のアセスメント D. 妊婦と家族の看護	講義	
	第7回	第4章.分娩期における看護 A. 分娩の要素 B. 分娩の経過 C. 産婦・胎児のアセスメント D. 産婦と家族の看護 E. 分娩期の看護の実際	目で見える母性看護Vol3 (DVD鑑賞)	
	第8.9回	5. 新生児の生理 6. 新生児のアセスメント 7. 新生児の看護	講義	
	第10回	8. 新生児の看護技術について実施 ・新生児のバイタルサイン測定⇒全身観察⇒沐浴 ⇒衣服の着脱・授乳姿勢 新生児の抱き方	目で見える母性看護Vol4 (DVD鑑賞)	
	第11回	1. 産褥経過 ①産褥期の身体的変化 ②産褥期の心理・社会的変化		
	第12回	2. 産婦のアセスメント ①産褥経過の診断 ②産婦の健康状態のアセスメント		
	第13回	3. 産婦と家族の看護 ①身体機能の回復及び進行性変化への看護 ②児との関係確立への看護 ③育児に関わる看護 ④家族関係再構築への看護		
	第14回	4. 施設退院後の看護 ①育児不安と育児支援 ②職場復帰(制度)		
	第15回	・試験(妊婦・産婦正常編・産褥で80点+新生児20点計100点)		

◆教科書: 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学概論 医学書院

◆参考文献: ・新体系 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 :メヂカルフレンド社

- ・カラー写真で学ぶ 妊産婦のケア第2版:医歯薬出版株式会社
- ・母性看護学 母子看護技術Ⅰ 母性看護技術 第2版:廣川書店
- ・写真で分る 助産技術 妊産婦の主体性を生かしたケア、安全で母児に優しい助産のわざ:インターメディカ
- ・病気がみえる⑩ 産科: MEDIC MEDIA
- ・ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版:医歯薬出版
- ・改訂第2版 日本版救急蘇生ガイドライン 2010に基づく 新生児蘇生法テキスト: MEDICAL VIEW

◆成績評価の方法: 筆記試験:本単元(妊娠期・分娩期)と産褥期の看護で80点 新生児期の看護20点と合わせて100点とする

◆担当教員より一言 :本科目は、女性がライフサイクルの過程において、経験することがある妊娠・出産に関して学ぶ科目です。近年女性の生き方も多様化し、結婚・妊娠・出産という発達課題の順序通りに親になるばかりではなく、少子高齢化が現状です。そういった社会的背景も踏まえ、妊娠～出産における生理的変化や心理状態を理解し、安全に妊娠・出産を乗り切れるようにするための看護者の役割とその技術に関して学んで欲しいです。この単元を基礎とし、後半には産褥・新生児、さらにはハイリスクにある人々への看護についても学びます。人が子を産み育てるとは、親になるとはどういうことかを考え、理解しながら3年次の実習へ向けていくためのステップとしてください

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	3年次 4月		
科目名 単元名	母性看護学援助論Ⅲ 母性の家族発達	単位数	1単位	時間数	30時間
担当講師 (実務経験)	専任教員(母性看護領域臨床実務 経験あり)	講義時限	14時限	試験時間・配点	1時限 100点

◆ 学習目標 ◆

1. 家族形成期と家族の発達について現代社会の背景を捉え、理解する
2. 子供の誕生に伴う家族の様々な変化や、家族を取り巻く環境について理解し、家族形成期の親役割と家族の発達課題、および倫理的側面をとらえた看護の視点について学ぶ
3. 母性看護における看護過程、ウェルネス志向が理解出来、事例を基に周産期の看護計画が立案できる

	回	授業内容	授業方法	勤労者医療該との関連学習課題
授 業 計 画	第1回 4/3 (水)	1. 家族とは 2. 家族形成期の家族の理解 ① 家族形成期と家族の発達 ② 新たな役割と課題 ③ 生活の再構成 ④ 家族の構成と関係の変化 ⑤ 家族の社会的変化 ⑥ ライフスタイルの形成	講義 自分の簡単な エコマップを作ってみる	勤労者医療該当箇所 看護過程の振り返り 母性実習記録と事前課題を準備 ↓ ↓
	第1～2回 4/3 (水) 4/10 (水)	3. 家族形成期の看護 ① システムとしての家族 ② 家族形成期のアセスメントと援助 ③ 家族形成期の援助の実際 * 母性領域で起こりやすい家族の問題 ・ 家族形成期：事例を用いて考える	講義 講義・個人ワーク 個人ワーク	
	第3回 4/12 (金)	1. 母性看護における看護過程 ① 母性看護の特徴 ② マタニティサイクルにおける考え方 ③ ウェルネス看護診断の考え方 ④ ウェルネス看護診断の展開	講義・GW	
	第4・5・6回 4/15 (月) 4/16 (火) 4/22 (月)	2. 看護過程(情報収集のポイント) 3. 看護過程のそれぞれの項目のポイント 4. 看護過程：記録記載について 5. 事例についてアセスメントして看護計画を立案 6. 看護計画立案 7. 看護計画発表 まとめ(講義)	GW グループワーク (4/22 放課後提出)	
	第7回 4/23 (火) 5/7 (火)	* 筆記試験	GW 発表	

◆教科書系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学概論 医学書院

◆参考文献 ①新体系 母性看護学2 マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 メヂカルフレンド社
②ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版 医歯薬出版 2017

◆成績評価の方法 グループワークへの取り組み状況 及び筆記試験 100点にて評価

◆担当教員より一言◆

本科目は2年次までに学んだ母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰ・Ⅱを基礎とし、次世代の健全育成のための家族発達について現代社会と照らし合わせて学んでほしい学問です。母性看護を取り巻く現状と課題、それに伴う倫理的問題を踏まえ、看護過程について理解することが求められる科目でもあります。母性看護学実習に向けて、看護の対象を母親と児、家族を含めて捉え、妊娠・出産・産褥を女性のライフサイクルの正常な経過の1つとして理解し、対象の経過をウェルネス志向で捉え、家族形成期と家族の発達、子供の誕生に伴う家族の役割変化や課題について学びます。春休みに課題とした内容を踏まえながら理解していきましょう

科目分類	専門分野Ⅱ	開講年次・時期	2年次 10月～12月		
科目名	母性看護学援助論Ⅱ (ハイリスクな状況にある人の看護)	単位数	1単位	時間数	30時限
担当講師 (実務経験)	医師(産婦人科勤務) 専任教員(母性看護領域臨床実務 経験あり)	講義時限	28時限	試験時限・配点	2時限 100点

◆学習目標: 母性看護を実践するために必要となるハイリスクな状況にある妊娠期・分娩期・産褥期の病態及び検査・治療について理解する。

1. 妊娠・分娩・産褥の正常な経過・生理的变化を基盤とし、状態が逸脱する場合の原因とその変化について理解する
2. 妊娠・分娩・産褥経過中に見られる異常や問題について学び、アセスメントの視点と看護について理解する
3. 新生児の異常が起こる原因とその診断について学び、アセスメントの視点と看護について理解する

回	授業内容	授業方法	学習課題
1	1. 遺伝相談・不妊治療	講義・パワーポイント (P358からのA～Dの内容を網羅しつつ、ハイリスク妊婦の看護について学ぶ) (E～Iの内容もふまえて異常時の看護について学ぶ)	(妊娠経過の正常・異常の鑑別を目的に行う検査の必要性や、それを受ける人への看護について理解する。昨今ハイリスクに陥りやすい要因について、現代の社会背景等を踏まえて理解する)
2	2. 妊娠初期から中期の異常 ・合併症・感染症・流産・早産		
3・4・5	3. 妊娠中期から後期の異常 ・妊娠高血圧症候群 ・常位胎盤早期剥離 ・胎盤位置異常 ・子宮内胎児発育遅延 ・羊水量異常・胎児体位異常 ・胎児機能不全 ・児頭骨盤不均衡 ・予定日超過		
6	4. 分娩の異常 ・分娩の三要素(産道、娩出力、娩出物) ・分娩直後の異常 ・産科処置と産科手術(帝王切開)		
7	5. 産褥の異常: 産褥期のホルモン変化 ・産褥期の問題点		
8	I 妊娠の異常と看護 6. 出生前診断を受ける人への看護・遺伝カウンセリング C. 不妊治療と看護 ①原因 ②検査 ③治療 ④治療を受けている女性の心理・社会的特徴 ⑤不妊夫婦への看護・社会的支援 ⑥不妊治療に対する看護		
9・10	G. ハイリスク妊婦の看護 ①高年 ②若年 ③肥満・過剰体重増加 ④ART 後 ⑤合併症(心疾患・糖尿病・子宮筋腫) ⑥妊娠高血圧症候群⑦切迫流産・早産 ⑧多胎 ⑨その他		
11・12	II 分娩の異常と看護: 産道・娩出力・胎児・付属物の異常 J異常のある産婦の看護: ①破水 ②分娩遅延のリスク ③胎児機能不全 K. 異常分娩時の産婦の看護: ①帝王切開術 ②骨盤位分娩 ③急速遂娩 L分娩時異常出血・産科処置と産科手術:(弛緩出血 頸管裂傷・膣 会陰血腫 会陰裂傷)		
13	IV産褥期の異常と看護 (子宮復古不全・産褥熱・感染症・乳房トラブル 本人あるいは児に健康上の問題がある場合・児を亡くす) V. 精神障害合併妊婦と家族の看護 ⑩妊娠への影響 ⑪治療および看護		
14	III 新生児の異常と看護 A. 新生児仮死 B. 分娩外傷 C. 低出生時体重児 D. 高ビリルビン血症 E. 新生児・乳児 VK 欠乏性出血症		
15	試験 疾患 50点+看護 50点 計100点		

◆教科書: 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②

◆参考文献: 母性看護学 母性看護技術Ⅰ・母性看護技術新体系 看護学全書 母性看護学② マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 病気がみえる⑩ 産科 第2版 MEDIC MEDIA

◆成績評価の方法 筆記試験 : 本単元中のハイリスク妊娠の病態に関する講義と合わせて 30 時限 100 点とする
本講義の配点は 50 点である その他課題や授業への取り組み状況、態度等を含めて総合的に評価する

◆担当教員より一言: 本科目は母性看護学概論における現代社会を取り巻く社会的背景や、女性の就労の現状、統計学的な視点もふまえて、また母性看護学助論Ⅰにおける正常な妊娠～産褥・新生児についてその経過と母の心理状態を理解した上で臨んでもらいたい科目である。1 年次及び 2 年次で学んだ事を基礎とし、異常に陥る原因やその病態生理について医師からの講義を基に、看護の役割について考えてほしい。
今後 3 年次で実習する母性看護学実習へ向けての基礎となるためしっかりと学びを深めてほしい